

全国豊かな海づくり大会 回遊旗リレースタート！
森から川へ、そして海へ
上下流域をリレーでつなぐ

来年の6月に岐阜県で開催される、第30回全国豊かな海づくり大会に向け、10月15日(木)、回遊旗リレー揖斐川出発式が、徳山ダムサイト公園で行われました。



▲上流から船で運ばれてきた回遊旗

この大会は、水産資源の維持や培養と海や湖、沼、河川的环境保全に対する意識を高めることを目的に、天皇皇后両陛下をお迎えして開催される国民的行事で、河川での開催は全国で初めてです。水産振興と水との共生をテーマに、川上から川下までの森、川、海を一体とした取り組みを全国に発信します。



▲揖斐川流域の回遊旗

回遊旗リレーは、海づくり大会のPRを図り、気運を高めようと岐阜県が主催で行なわれ、揖斐川、長良川、木曾川など8つの流域で、この日に一斉にスタート。回遊旗は、川と海を行き来する、鮎やあまごなどの回遊魚をイメージし、10月から12月までは川下へ、来年の2月から4月には、川上へのリレーが行われ、大会当日には、各流域の回遊旗が会場に集結します。

出発式は、揖斐川最上流部より、船に乗って運ばれてきた回遊旗を、園児たちの鼓隊演奏に合わせ参加者

全員で迎えたほか、揖斐川下流域までのリレーをイメージした小中学生による回遊旗ミニリレーが行われました。また、久瀬、坂内中学校の生徒による「走る川」の合唱と、森と川へのメッセージ、海へのメッセージを久瀬、坂内中学校の生徒代表が読み上げました。



▲小中学生による回遊旗ミニリレーの様子

全国豊かな海づくり大会は、子どもたちが主役となつて、森、川、海が一体となった自然環境の保全の大切さを発信し、清流ぎふをアピール、そして、平成24年に開催のぎふ清流国体・ぎふ清流大会につなげていきます。

海づくり大会のキャラクター

ヤマリン



「ヤマリン」の祖先是、岐阜の清流に住んでいたオオサンショウウオでした。ある日、大雨、雷、大洪水により、海へ流されました。その時のショックでも生活できる能力を授かりました。森、川、海どこでも育つことのできる「ヤマリン」は、まさに清流をこよなく愛するキャラクターなのです。

頭は緑で「山」の形をしていて、豊かな「山(森)」を表しています。ピンクの花は県の花「れんげ草」です。体は上流から下流、そして海につながるたぐさんの「川」を表しています。足は水色をバックに白い水玉模様で、豊かな「海」を表しています。

名前の由来は、山の「ヤマ」と海の「マリン」を表しています。

全国豊かな海づくり大会協賛事業
生態系保全に外来種を駆除

10月18日(日)、谷汲長瀬の湯谷ため池で、3年ぶりに農業用ため池の生態系保全を目的とした、水生生物調査と外来種の駆除活動が行われ、地域の皆さんが参加されました。

この日捕獲されたのは、ドジョウ・インガメ・ヤゴなどで、幸いにも外来種は発見されず生態系は保全されており、捕獲された水生生物は、下流の府内川に放流されました。

このような取組みが、森や川の海の豊かな恵みを、子どもたちへ引き継ぐことにつながっていきます。



▲外来種駆除活動の様子

規律動作を競い合う
消防教練会開催！

第3回揖斐川町消防教練会が、11月1日(日)、市場グラウンドで開催されました。

大会の結果は次のとおりです。

◎総合

優勝 大和分団

準優勝 小島分団

3位 本 部

◎小隊訓練の部

優勝 小島分団

準優勝 大和分団

3位 本 部

◎各個訓練の部

優勝 大和分団 第3班

準優勝 大深分団 第3班

3位 小島分団 第3班

4位 大和分団 第2班

5位 小島分団 第2班

6位 揖斐分団 第1班

7位 清水分団 第1班

8位 本 部 第1班

9位 北方分団 第2班

10位 胨永分団 第3班

◎団長賞

最優秀指揮者賞 揖斐分団

優秀指揮者賞 大和分団

優秀指揮者賞 大深分団

優秀指揮者賞 清水分団

細野 真

今村 浩樹

竹中 康典

高橋 輝幸



ぎふ清流国体のカヌー競技開催に向け
カヌー審判技術を取得！

平成24年開催の国体に向け、カヌー競技の審判技術の習得を目的に実地研修が行われました。

9月27日(日)は、国体カヌー競技開催予定地である朝鳥公園付近(上野)の揖斐川で開催された、県民スポーツ大会で、17人が実地研修に参加されました。

10月25日(日)には、豊田市の矢作川で行われた日本カヌースラローム選手権大会に22人が審判員として参加しました。初めて公式大会の審判を行うことになり不安気味な参加者でしたが、選手からのクレームもなく大会終了後は審判技術に自信が持てたようでした。



▲役員から説明を受ける参加者(豊田市)

参加者の一人は「本番の国体開催まで3年を切ったが、これからも審判技術の向上のため努力していきたい。」と語っていました。



▲選手の動きを注意深く観察する参加者

役場では、国体開催時に審判員として携わっていただく方を計画的に養成しています。これまで38人の方が審判資格講習会を受講されました。来年も4月に講習会を開催予定です。興味のある方は、役場(国体準備室)までお問い合わせください。

春日地域の伝統文化

上ヶ流地区と下ヶ流地区で太鼓踊

10月10日(土)は春日^{かみ}上ヶ流^{がれ}地区、11日(日)には春日^{かみ}下ヶ流^{がれ}地区で、太鼓踊りが披露されました。

この太鼓踊りは、豊年祈願や感謝の踊りとして古くから人々に親しまれ、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されています。

鮮やかな衣装を身にまとった踊り手が太鼓を付け鉦や笛の音色に合わせて踊る姿はとても華麗です。



▲上ヶ流太鼓踊りを披露する保存会の皆さん



▲下ヶ流太鼓踊りを披露する保存会の皆さん

上ヶ流、下ヶ流地区の踊りは、踊りの輪の中心に「ザイ」と呼ばれる先端にきれいな布がついた棒状の物を持った踊り手があります。周りを囲む10人あまりの踊り手は、お囃子に合せ、胸に抱えた太鼓を打ち鳴らしながら、時にはゆつくりと時には激しく踊ります。それぞれ各地域の神社など、数か所でお昼から夜までかけて踊りが披露されました。

地域の皆さんが、心を合わせて伝統芸能を受け継ぐことで、地域のつながりがより強いものになっていくことでしょう。

農作物の収穫に感謝！ 坂内広瀬で秋まつり

10月11日(日)、坂内^{ひろせ}広瀬地区で秋まつりが行われました。

広瀬の秋まつりは、農作物の収穫に感謝する行事として、古くから親しまれています。

広瀬神社では、多くの観衆が見守る中、広瀬地区に伝わる太鼓踊りが披露されました。

広瀬地区には、古くから伝わる広瀬の太鼓踊りが受け継がれています。



▲広瀬の太鼓踊りを披露する保存会の皆さん

秋を満喫！ 藤橋どんどん秋まつり



▲園児による手話ソングの様子

10月11日(日)、揖斐川町^{つるみ}鶴見の藤橋公園で、藤橋どんどん秋まつりが開催されました。

当日は天気にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。野外ステージでは、色づき始めた山々を背景に、地元のみじはし権現太鼓ではじまり、保育園児の鼓隊演奏やキャラクターショー、歌謡ショーなどが披露されました。

また、藤橋城や西美濃天文台が無料開放されたほか、宇宙服の展示や宇宙航空研究開発機構の講演会が開催されました。会場内では地元物産品の販売、プランターやお手玉つくりなどの体験も行われ、秋の一日を満喫しました。

「葦草やさざれ石など地域資源を発信し活性化に」
地域の拠点かすがモリモリ村リフレッシュ館
リニューアルオープン！

かすがモリモリ村リフレッシュ館がリニューアルオープンし、10月29日（木）に、オープンセレモニーが開催されました。

かすがモリモリ村リフレッシュ館は、平成9年4月のオープン以来、12年あまりが経過し老朽化が進んだため、改修工事を行ないリニューアルしました。

リニューアルオープンの式典では、テープカットとかすが保育園の4歳児と5歳児による鼓隊演奏が行われ、オープンを祝いました。



▲テープカットには園児も参加



▲リニューアルされたリフレッシュ館

また、先着100人に特産品がプレゼントされたほか、こんにやく作り体験も行なわれました。

改修は、建物外壁の全面塗り替えや施設内の浴槽内部の改修、濾過器など機械設備取替、照明、換気扇などの電気設備の改修などです。

ご家族、ご友人など、お誘い合わせてリニューアルしたかすがモリモリ村リフレッシュ館をご利用ください。

「清流を次代へ」
川と海のクリーン大作戦！

10月25日（日）、町内全域の揖斐川河川敷を中心に、川と海のクリーン大作戦が行われ、揖斐建設業協会、町内小中学校、家庭倫理の会などの各種団体や地域住民を合わせおよそ900人の皆さんが参加されました。

この取組みは、ごみを捨てない心を育んでもらおうと国土交通省の提唱で行われており、各自治体や賛同する企業や団体などがごみ拾いを行なう事業です。

この日、集まったのは、ペットボトル、空き缶、粗大ごみなど、およそ5トンになりました。

今後皆さんで美しい水辺づくりに取り組み、清流を守っていきましよう。



▲河川沿いのごみを拾う参加者の皆さん

「青少年地域で守ろう育てよう」
街頭啓発活動を実施！



▲街頭啓発の様子（揖斐駅前にて）

11月の「全国青少年健全育成強調月間（内閣府主唱）」に合わせ、11月2日（月）、町内2か所で、街頭啓発が行われました。

この活動は、揖斐川町青少年育成町民会議が主催。青少年育成推進員、保護司会や更生保護女性会の皆さんに加え、県立揖斐高等学校のMSリーダーズの皆さんが、啓発用品のポケットティッシュ、チラシを配布し、運動を呼びかけました。

この活動を機に、青少年の社会での自立、生活習慣の見直しを促し、青少年を犯罪や有害環境等から守るための取組みを続けていきます。